



翔け三郷の子

上越市立三郷小学校
令和6年度学校だより
第4号
令和6年7月18日
三郷小学校 HP <https://www.sango.jorne.ed.jp/>



「子どもたちの学校生活に対する満足度は…!？」

校長 佐藤 吉弘

先日「Q-U (Questionnaire-Utilites)」の結果が届きました。Q-Uとは、子どもたちへのアンケートを通じて、子どもたちの学校生活における満足度や意欲、さらには学級集団の状態などを調べることができる調査です。結果からは、多くの子どもたちが、学校生活や今の学級に安心感をもって生活していることが分かりました。しかし、今の学校生活に対して課題を感じている、あるいは不満がある、という回答をしている子どももいました。

子どもたちが安心して過ごせる生活環境を保障することは、学びの場である学校として、必要最低限の条件だと考えています。今回のアンケート結果を職員全員で検討・協議し、居心地の良い学校作り、学級作りに役立てていこうと思います。

しかし、私はそれと同時に「今の学校生活に課題を感じる」子どもがいることは、ごく自然のことであるし、決してそれ自体は悲観するべきことではないと考えています。

6月末の全校集会の校長講話として、学校生活の満足度をテーマに、以下のような話をしました。

学校は集団生活の場ですから、自分一人が自由に、思った通りに行動できるわけではありません。周りの人と意見が食い違ったり、いやな思いをしたりすることもあるでしょう。また、どれだけ頑張っても、いつも自分が理想とする成果が出せるとは限りません。それでは「課題を感じている、不満がある」という状態は、その人にとって不幸なことなのでしょうか。私は「課題を感じている、不満がある」と言える人には、大きく2つの良いところがあると思います。

1つ目は、「直すべきことに気付く力をもっている」ということです。自分や周りをよく見て、感じて、自分自身の判断で、目の前の課題をしっかりと受け止めることができているという証拠です。

2つ目は、「課題に対していろいろ考え、行動しようとするチャンスがある」ということです。困ったことがあれば、何とか解決しよう、という風に考えますよね。問題に立ち向かい、解決策を考え、実行しようとする力を発揮するチャンスです。

これらのことから、私は「課題がある、不満がある」状態は、人を成長させてくれるチャンスになると考えています。みなさん、自分自身のこと、または自分の身の回りから、たくさん問題点を見つけてください。そして、それを何とかするためにたくさん考えてください。

問題に真剣に向き合うこと自体が、その人の成長につながります。そして、それをクリアできた時は、もっともっと大きな成長につながります。

問題を見つける、解決の方法を考える、実行する、成果を振り返る、さらに改善する、というようなことを自分から進んでできる子どもたちであってほしいと私は願っています。

子どもたちは、これから先の長い人生を生きていく中で、様々な困難に出会うことでしょう。そんなとき、自分で考え、行動し、その困難を乗り越えていけるたくましさが必要です。学校教育の場で、そのたくましさの基礎を身に付けさせたいと考えています。